Fecovita、メンドーサの商談会を機に豪州・英国向けワイン4コンテナを受注

ProMendozaによると、若年層向けの普及価格帯の品種別ワインを求めたEC事業者が、2週間以内に豪州・英国向け4コンテナを発注した

2026年11月16日（月）



アルゼンチンのワイン協同組合グループ、Fecovitaが、2025年のVinexpo Explorer Mendozaで築いた商談を機に、日本、オーストラリア、英国で新たな輸出取引を獲得した。メンドーサ州の輸出促進を担う官民機関ProMendozaが11月13日の発表で明らかにした。

同機関が公表した中で、最も明確な商業成果は、ECを通じて販売する豪州・英国向けの輸入業者からの受注だった。ProMendozaによると、買い手は40フィートコンテナ4本分のワインを発注し、2本をオーストラリア、残る2本を英国向けとした。発表では輸入業者の社名や契約額、コンテナに積まれたワインの容量（リットルまたはボトル本数）は明らかにされていない。

Fecovitaによると、買い手が求めていたのは、回転率が高く、若年層を意識したスタイルの普及価格帯の品種別ワインだった。同社によれば、輸入業者はワインのタイプ、価格帯、ラベルの好みを明確に指定してメンドーサを訪れた。Fecovitaでアジア、アフリカ、オセアニア向け輸出を担当するHernán Olivera氏は、買い手がイベントから帰国して約2週間後に発注を確定したと述べた。

FecovitaとProMendozaは、試飲や交渉、異なる国の買い手と売り手の信頼構築を含む、より長い輸出プロセスを経て、対面での商談が実際の取引につながることを示す事例として、今回の案件を紹介した。ProMendozaによると、複数のワイン輸出が行われ、少なくとも2件では初回販売に続いて追加発注があった。出荷日程や各契約の締結日は公表していない。

発表では日本向けの輸出にも触れているが、詳細は限られている。ProMendozaによると、Fecovitaはメンドーサでのイベント後、日本の輸入業者との取引を成立させたものの、コンテナ数、ボトル数、売上高はいずれも明らかにしていない。そのため、オーストラリアと英国向けの受注だけが、発表で具体的な数量が示された取引となっている。

アルゼンチン・ワイン協同組合連盟の略称であるFecovitaは、ウェブサイトで、メンドーサ州の29の協同組合で構成され、協同組合組織の生産物を販売していると説明している。この29という数字に基準日は記載されていない。同社はアルゼンチン最大級の協同組合系ワイングループの一つであり、ProMendozaが取り上げた今回の事例は、プレミアムワインではなく、価格を抑えた品種別ワインの実務的な輸出ルートに焦点を当てている。

この点は重要だ。今回の発表は商談会の主催者による広報であり、業界全体を対象とした報告ではない。公表された情報からは、数量が明示された企業単位の輸出成果は確認できるものの、アルゼンチンのワイン輸出全体が回復していると結論づけることはできない。Fecovitaの過去の比較可能な数値は示されておらず、発表に前年比のデータもなかった。

ProMendozaによると、Vinexpo Explorerに参加した買い手の約70％は、訪問前にメンドーサを知らなかった。同機関は、輸入業者を州に招くことで、ワイナリーが初回の面談から具体的な交渉へと進むまでの時間を短縮できると説明した。買い手はワインを試飲し、生産現場を見学して生産者と直接会うことができ、企業側も複数回の商談のために海外へ出向く必要がない。

日本について、発表はワイン以外にも商機が広がっていると指摘した。日本に18年間住み、アルゼンチン産品の輸入・販売会社Biosophy Co.を設立したアルゼンチン人実業家、Iván Acuña氏を取り上げている。ProMendozaによると、同社の取扱商品にはワイン、マテ茶、蜂蜜、ジンが含まれる。Acuña氏は、日本が最近アルゼンチン全土からの牛肉輸入を認可したことを受け、日本市場ではアルゼンチン産ワインの成長見通しが一段と強まる可能性があると述べた。また、ナッツ、乾燥食品、ニンニク、香辛料、オレガノにも日本で需要が見込めるとし、専門流通チャネルでアルゼンチン産食品全体の販売が拡大すれば、ワインにも恩恵が及ぶ可能性を示唆した。